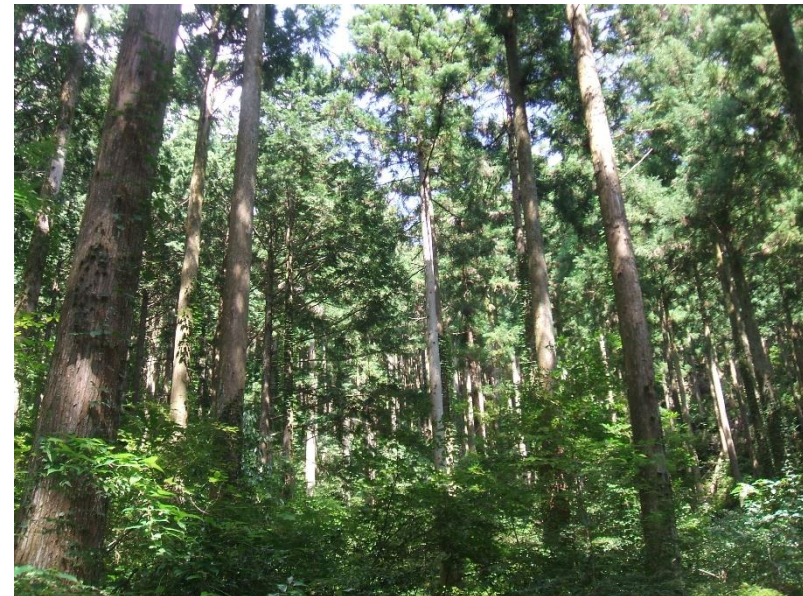


# 協働の森づくりを目指して歩んだ19年

## ～こうち森林救援隊～

### 1. 救援隊設立の背景

- 2002年11月 前身となる「源流森林救援隊」が発足  
県下の森林ボランティアが集結  
活動基盤は四万十川の源流域
- 2003年4月 NPO法人「土佐の森救援隊」が発足
- 2005年1月 **平成の大合併で鏡・土佐山村が高知市に合併**  
鏡川全域が収まる新高知市の誕生  
森林面積は3倍に増加  
森林保全や鏡川流域の系統的な環境保全が課題
- 2005年1月 **こうち森林救援隊が発足**



目指したい人工林の姿はセラピー森林

## 2. 救援隊設立の目的

- ① 鏡川の源流域を中心とした森林環境整備
- ② 林業の再生や中山間地域の活性化
- ③ 景観保全や防災対策も兼ねた里山整備

近年では、東日本大震災にも学び南海大震災に備えるための  
防災対策も兼ねた里山の整備が主体となっている

その主な里山整備としては・・・

- 2007年1月 ～ 筆山公園
- 2011年2月 ～ 南ヶ丘ニュータウン・さくら公園
- 2015年5月 ～ 長浜・ノツゴ山
- 2016年6月 ～ 春野総合運動公園
- 2018年5月 ～ 南国市・禅師峰寺
- 2019年2月 ～ 長浜・鳥坂山
- 2021年2月 ～ 野市総合公園



2005年1月 高知市近郊のボランティアの  
受け皿としてこうち森林救援隊を設立

### 3. 救援隊の活動履歴

2005年1月 高知市の職員など15名余りでこうち森林救援隊設立

7月 高知市と「ボランティアの森づくり」の協定締結  
高知市有林（土佐山・高川）他の間伐実施  
高知新聞（8月）や読売新聞（12月）にも掲載

2006年5月 高知市と「森づくり」に関する懇談会開催

11月 第1回ボランティア祭りの開催  
梅ノ木公民館に総勢100名を超える  
一般市民やボランティアが参加

2007年1月 筆山公園整備の応援開始  
展望台周辺の景観回復のための除間伐実施

2007年4月 2007年度の第1回定例会開催  
テレビ高知「ECO応援団」の取材有り



2006年11月 第1回ボランティア祭りの開催  
国土緑化推進機構の応援有り

2007年6月 第5回定例会

NHK高知「土佐を元気に」キャンペーンの  
取材有り

9月 第11回定例会（岡崎高知市長の間伐）  
テレビ高知「ECO応援団」の取材有り



2007年11月 TOTO 木瀬社長による  
記念植樹実施



岡崎市長も救援隊のブルーヘルメットを被り  
初間伐に挑戦

10月 TOTO（株）水環境基金の助成決定  
3年間（2007～2009年）で660万円の助成が決定

11月 TOTO（株）木瀬社長が来高  
橋本知事と岡崎市長を表敬訪問及び梅ノ木地区にて  
記念植樹の実施

2008年4月 「TOTO どんぐりの森」記念植樹祭  
テレビ高知「ECO 応援団」の取材有り

5月 四国銀行 130周年記念植樹の応援

11月 第3回ボランティア祭りの開催  
総勢120名余りの一般市民やボランティア  
が参加

2009年1月 四国銀行協働の森（協働間伐の開始）



2007年11月 頭取と市長による記念植樹実施

2009年4月 「TOTO どんぐりの森」記念植樹祭

8月 TOTO 夏祭りの応援  
「とさっ子タウン」の応援

11月 第4回ボランティア祭りの開催  
総勢150名程が木と人との触れ合いを満喫



## 筆山公園整備（2007年1月～）

2005年1月 高知市が主体となって始まった筆山公園整備

2007年1月 救援隊も第3回活動から参加

主に展望台周辺の景観確保のための伐採を担当  
中には胸高直径1m近くの巨樹の伐採も実施



この年の作業は、参加者からの注目も浴びる中  
テレビ高知の「頑張れ高知！ECO応援団」の取材も  
受けての作業となった

コロナで中断される2019年まで13回連続応援  
筆山公園の景観保全活動に寄与してきた

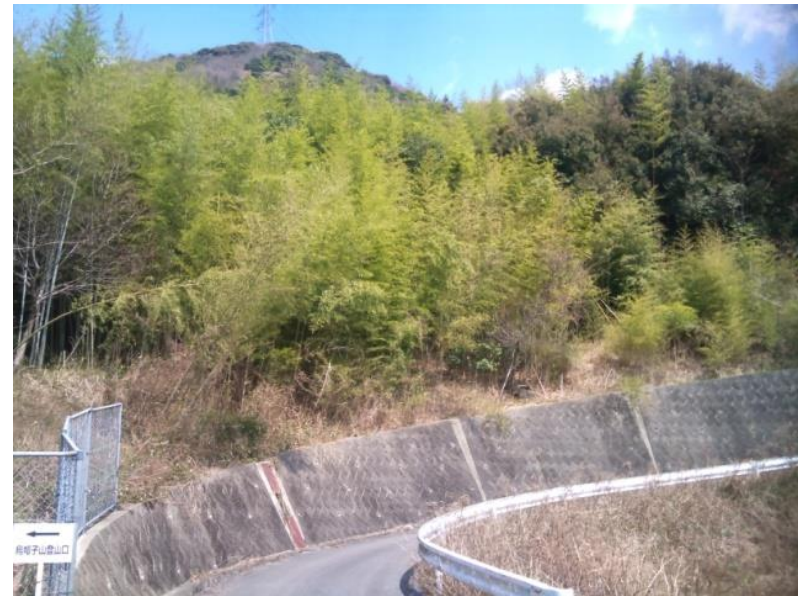
## 南ヶ丘ニュータウン・さくら公園整備（2011年2月～）

2000年4月 高知市里山保全条例施行

2012年2月 南ヶ丘自治会からの要請で整備開始

2012年4月 モデル地区に指定

里山整備事業の助成も受けて環境学習会を開催



2011年～2016年まで年に数回の整備を実施

竹林の除間伐整備は勿論のこと  
展望台の南側にあったシイやカシなどの広葉樹も伐採  
眺望の確保と景観の保全に努めてきた

2016年2月 24時間テレビの義援金を活用して  
高知市内の親子を対象とした自然体験学習会を開催  
高知放送24時間テレビチャリティー委員会の主催

竹林でのノコギリ体験や  
持ち帰った竹を使っての  
竹細工づくりなど



子どもたちは自然体験を通じた  
環境学習を満喫してくれていた



2019年3月 春の恒例行事として定着していたが・・・  
コロナの関係で中断中

折角整備してきたさくら公園も再び荒れてきており  
何とか再開していきたいところである



## 防災対策としてのノツゴ山整備 (2015年5月～)

2012年5月 高知市里山保全事業のモデル地区に指定

2015年5月 梶ヶ浦防災会からの要請に応じて整備開始



南海大地震による津波の被害から逃れるための防災対策

避難路となる階段や避難場所周辺の下草刈りと竹木類の除伐採  
今年で9年目を迎えている

## 春野運動公園整備 (2016年6月～)

2016年6月 林野庁の国庫金事業を活用して整備開始  
(森林・山村多面的機能発揮対策交付金)

春野総合運動公園の施設開設以来  
手の入っていなかった法面などの整備に着手



まずは、視界を遮っていた竹木類を除伐  
樹高が20mも超すようなシイやカシなどの広葉樹も除伐  
桜やモミジを植えられる法面へと変貌させた

2019年10月 緑の募金公募事業の助成も受け  
植樹祭を開催  
桜やモミジの苗木（100本）を植樹

2021年3月 2度目の植樹祭を開催  
桜やモミジ（110本）を植樹



春野運動公園では  
その他のエリアでも桜やモミジの植樹を行っており  
更に100株余りの苗木が植えられている

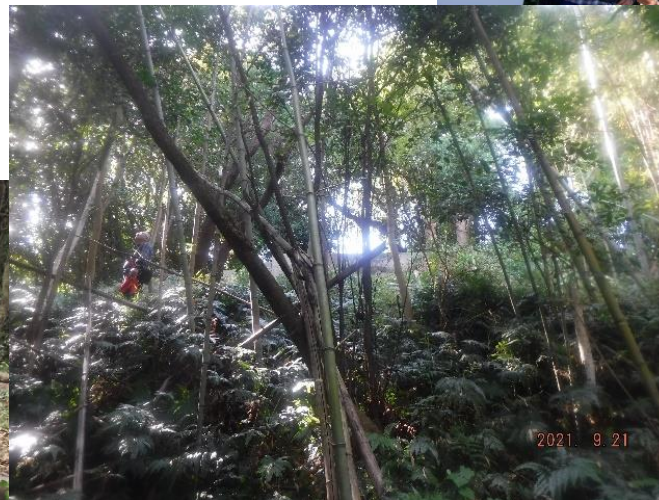
現在の第12駐車場東側の法面  
桜やモミジが順調に育ってきており  
数十年後にはサクラの名所の一つになるかも・・・  
と期待されている



## お遍路さん奉公の禅師峰寺整備 (2018年5月～)

2018年5月 四国88カ所・32番札所の禅師峰寺整備開始

禅師峰寺は周辺住民の避難場所  
遍路道はその避難路ともなっている  
お遍路さんへの奉公作業としての遍路道整備は  
防災対策にも貢献



鬱蒼としていた遍路道の  
竹木類を除伐採

林内を整理するため  
伐採木は可能な限り搬出した

作業中にはお遍路さんの姿も・・・  
温かい応援の声も届けていただきました

2021年11月 おもてなしの心を育む植樹祭を開催

十市サッカー少年クラブの子ども達（10名）にも  
集まっていただきました



テレビ高知「ECO応援団」の  
取材もありましたよ～！



見違えるほどに明るくなった遍路道  
九十九折りの急坂を上り終えたお遍路さんたちの  
ホッと一息つける憩いのスペースとなる・・・  
そんな想いも馳せらせる活動となりました

## 憩いの里づくりの鳥坂山整備（2019年2月～）

2019年2月 （株）海昌との協働の森づくりスタート

2019年4月 不法投棄の山を憩いの山へと変貌させる  
雑木類を除伐して桜の山へ・・・



県道14号線にまで張り出してきたクスノキは  
大型クレーンを使って枝先を剪定

2019年6月 高知新聞に掲載

2019年12月 植樹祭開催  
桜(50株)やモミジ、ツツジなど160株を植樹

2020年12月 大クスノキも伐採



桜の養生上の問題から  
再び枝先を伸ばし始めてきていたクスノキは伐採  
現在は定期的な下草刈りを実施、保全に努めている

## 野市総合公園整備 (2021年2月～)

2021年2月 救援隊と四国銀行、高知県、香南市の4者で協働の森づくりの整備協定を締結

2021年3月 野市総合公園の展望台周辺から整備開始

2021年12月 高知県木材普及協会の支援も受け木柵や階段も修復





2022年5月 四国銀行や井上石灰工業の応援も受け  
協働の森づくりの整備を行う  
テレビ高知の「ECO 応援団」の取材もあり

チェーンソーを使った  
ハードな間伐から・・・

子ども達も参加できる  
ノコギリ体験作業まで・・・



四国銀行からは・・・  
日頃のボランティア活動に感謝している証としての  
発電機の授与もありました

企業や行政、ボランティアによる  
3者の協働の森づくりとして定着してきている

# 里山整備は何故重要か・・・？

## 1. 里山の現状

- 里山は、その昔暮らしを支える林産物の宝庫としての恩恵も受けるなど人々の暮らしと密接に関わる中大切に守られ共存してきた存在だった
- また、子どもたちの自然観察や情操教育を育むための貴重な体験の場としても地域の文化の継承やコミュニティを支える場としても親しまれ、その伝統を引き継いできた
- しかし、近年になって人々の暮らしの形態に大きな変化が起こり、今では人の手の全く入っていない荒廃林が増加の一途を辿ってきている



梅ノ木地区・八坂神社の秋祭りも  
後継者がいなくなり、祭りの継続が危ぶまれている

- その結果、人が立ち入ることさえ出来なくなり、林産物の活用が難しくなったばかりか、美しかった里山の景観は損なわれ、地域の文化の継承やコミュニティ形成の場としての活用もできなくなってきている



長浜・ノツゴ山の下見  
(2020年4月)



春野運動公園の未整備林  
人の手が入らなくなると  
立ち入ることさえできなくなってしまいます  
(2016年5月)

## 2. 里山整備が進めば・・・

- ① 数十年前の美しい里山の風景が再現される
- ② 環境問題や自然保護への関心の高揚にも繋がる
- ③ 自然と人々の暮らしとの調和が図られ  
↓  
自然と人里との緩衝帯の役割を果たすことにも繋がり  
↓  
獣害問題の解消にも寄与できる
- ④ 四季折々の季節感を楽しみながら、林産物も享受できる
- ⑤ 子どもたちの環境学習の場や  
豊かな情操を育む体験の場としても活用できる
- ⑥ 核家族化が進む中、親子三世代の交流の場として活用したり  
地域コミュニティの再生の場としても活用することができる  
格好の場ともなる



整備後の春野運動公園の雑木林  
(2015年8月)

⑦ 防災対策としても・・・

東日本大震災では、あの悲惨な状況の中でも  
身近な里山が人々の大切な命を救ったことは紛れのない事実



全国各地で進められている防災対策上の大きな課題として  
里山の整備・保全是改めて見直されてきている

高知県でも、来るべき南海大地震に備えることは喫緊の課題  
里山の整備は欠かせない対策の一つと言える

防波堤や避難タワーなどの箱物は莫大な費用がかかるが  
裏山の整備であれば軽微な費用で整備や管理もできる



正に、一石二鳥、三鳥の対策となるのではないか



長浜・ノツゴ山で行われた避難路の  
整備作業(2017年5月)

### 3. 里山整備をどう進めるか

#### ① 先ずは、地域住民が主体となった計画づくり

前記（①～⑦）の項目も踏まえて、  
地域の特性を活かした里山整備計画を作成  
自分たちは何ができるのか、何をしたいのか・・・  
完成形を想像したビジョンづくりが肝要



**防災対策の観点からも、実はここが最も大切！**

行政の役割は・・・先ずは様々な情報提供  
企業等の関与は必要か、可能か・・・  
或いは、ボランティアの応援についての検討も必要だが  
それは二の次ぎの問題

#### ② 青写真ができれば、先ずは一步を踏み出す

基本、人に頼ってはい前には進めない  
草花を植えたり、木1本の除伐、草ひとつの除去であっても  
いいので、先ずは行動を開始する



ボランティアの森づくり計画について  
当時の岡崎高知市長と懇談会開催  
(2005年7月)

そこから生まれてくる課題や感動が次のステップへと繋がるもの  
自らの課題とともに、行政や企業、ボランティアへの要望すべき事項も見えてくる  
行政や企業も実績を示していかないと動き難いもの

### ③ 課題の明確化

計画と照らし合わせて  
自分たちのできることとできないことの錆び分け

行政や企業、ボランティアなどに相談すべきことを整理  
場合によっては計画の変更や微調整も必要となる

19年間続けられてきた救援隊活動も同じですが・・・  
里山整備や保全には特効薬のようなものはなく、  
①～③の繰り返しが基本

地道な地域活動が定着しなければ  
里山の整備は成功し得ないこと

救援隊では、これまでの活動の継続が新しい仲間の参入や  
理念の進化、発想の転換にも拡がりを見せてきている



15年も続いてきているアジロ山・森のようちえんの  
活動には学ぶべきものも多いと思います  
(2023年11月)

④ 頼りになるのは、地域おこし協力隊やその卒業生の力

地域おこし協力隊として3年間の業務に携わってくれている方やその卒業生の中には、林業関係の従事者も多い

彼らは、樹木の除伐採や下草刈りなどの山仕事のプロだが・・・夏場の林閑期の収入には大きな不安も抱えている

コーディネート如何では、地域のニーズにも応えてくれる貴重な戦力となってくれる筈

ボランティアやシルバー人材センターへの呼び掛けも含めて行政などからの支援要請も必要か・・・

最近の救援隊の活度履歴を見ていただいても里山整備の要望が多いことは理解できるどころ

・・・というより、里山整備のみで成り立っている状況それだけ、地域からの要望が高まっている証拠と言える

地域も協力隊関係者もウィンウィンの関係なることは可能な筈であり、検討していきたい課題と言えるのではないのでしょうか・・・？！



2022年の養成講座から参加してくれている地域おこし協力隊のメンバーも増えてきました  
(2023年12月)